

行政視察報告書

令和5年8月3日

貝塚市議会議長 南野 敬介 様

阪口 勇
川岸 貞利

【日程及び視察市】

令和5年8月1日

奈良県 橿原市

「0～2歳の第2子以降の児童の保育料の無償化について」

【内 容】

貝塚市役所から車で向かい、午後2時前に橿原市役所に到着。4階議事課を訪れ、委員会室に通されました。

まず、議会事務局西川課長補佐から、橿原市の概要説明も含めた挨拶があり、行政視察団を代表して阪口副議長が挨拶し、「0～2歳の第2子以降の児童の保育料の無償化について」子ども健康スポーツ部の島田さんより説明を頂きました。



橿原市では、125,000人の人口が長く推移していたが、減少に転じ現在令和5年7月1日時点では119,554人となっている。子どもの数も減っており、下記表を示され貝塚の乳幼児の数も調査して頂いていた。(下の表)

人口票（令和7月1日時点）

	男 性	女 性	合 計	貝塚市
0 歳	344	380	724	469
1 歳	386	403	789	478
2 歳	418	364	782	488
3 歳	384	404	788	537
4 歳	467	420	887	562
5 歳	463	411	874	636
0～5 歳合計	2462	2382	4844	3170

過去3年間の0～5歳児合計の人口推移

	男性	女性	合計	貝塚市
令和3年	2707	2526	5233	3339
令和4年	2651	2454	5105	3263
令和5年	2462	2382	4844	3170

○導入に至った経緯

市長の政策で、トップダウンに降りてきたのではなく、担当する部署である「こども・健康スポーツ部」が令和4年7月27日に「子育てしやすいまち 樫原」プロジェクトを立ち上げ、副部長を中心に若い職員も入り、子育てしやすいまちにするための議論を行い6つの事業をまとめたとのこと。

(子育て担当の部としてめざす事業)

- ① 出産祝い金支給事業
- ② 子育て世代応援施設整備事業
- ③ 子ども医療費助成事業拡大事業
- ④ 副食費の助成事業
- ⑤ 保育料無償化拡大事業
- ⑥ 荷物負担の軽減事業

この中の⑤保育料無償化拡大事業として

(内容) 第1子、第2子、は18歳に達する年度までカウントする
第2子以降の子どもの保育料無償化

【期待できる効果】

金銭的負担を減らすことにより、子育てを行うために必要な費用を削減

↓

2人目以降の子どもの出産を促す

【課題】

- 1、 補助金等がある事業でないため、財源はすべて市で賄う必要がある。
- 2、 徴収していた保育料が無償となるため市の収入が減少する。
- 3、 実施するにあたり、システムの改修等が必要となる事が予想される
(3、はシステムの保守の範囲ででき費用はゼロであった)

第2子以降の保育料無償化における必要な予算額は、

	無償化しない	無償化する	差額	予算
歳入	192,895,200	109,950,300	-82,944,900	歳入減少
歳出	1,905,410,520	1,923,377,920	17,967,400	歳出増加
市の負担額			100,912,300	

○ほぼ1億円の財源が必要であった。

○財務部担当課との交渉

樫原市は財政状況も厳しく、各課の予算要求を3%減らす努力を求めている。
子育て施策を訴え、財務部に認めて頂き、令和5年4月より「0～2歳の第

2子以降の児童の保育料の無償化が始まった。

○議会には、3月議会で報告

条例改正の必要がなく規則の変更で行えた。予算の承認が必要

○周知では

保護者の皆様には、保育料通知文書に、第2子以降の保育料無償化のご案内市のホームページに掲載

説明を受けた後、行政視察団からいくつかの質問をさせていただき、午後3時過ぎに終わりました。

【感想】

第1子が18歳の年代なるまで、次の子は第2子と数え、第2子以降の0～2歳の保育料を無償化するにあたり、人口12万人弱の橿原市で財源として1億円で済むとは、思っていたより少なかった。貝塚市では6,500万円ぐらいでできる政策だと分かりました。

また、感心したのが市長から降ろされた政策でなく、子育て担当部署が考え実現に向け財務担当と折衝し実現にこぎつけたものであり、上司と部下の風通しの良さ、橿原市役所の行政職務に対する職員の姿勢に感心させられました。

全国的に問題になっている人口減少、少子高齢化問題。貝塚市でも平成21年90,600人強をピークに人口が減少に転じ、現在82,000人程となっています。

政府は、「異次元の少子化対策」と銘打ち、出産や子育てに関する支援等を拡充しようとしています。人口減はなかなか止まる気配がありません。

やはり、若い人が住みたいと思う街づくり、子育てしやすい街づくりが重要であると考えます。そのためにも、今回の橿原市の保育料無償化の取組みは大いに参考になりました。貝塚市でも第2子0～2歳児の保育料の無償化を実現させ、「子育てするなら貝塚市」と貝塚市に住んでいる若者が喜び、市外に住む若者が貝塚市に住もうと思えるものにしたと思います。

